2024(令和6)年度 名古屋大学基金 会計報告

2024年度の名古屋大学基金の寄附受入金額は966,596,318円となりました。皆様よりあたたかいご支援を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。

■2024年度の寄附受入状況

◇寄附金合計額【現金寄附】: 778,702,620円

◆寄附金合計額【物納、有価証券等を含む】:966,596,318円

①法人と個人の内訳

法人からの寄附、個人からの寄附についての内訳は以下の通りです。

| | 法人 | | | 個人 | | | | | | | | |
|--------------|---------|-------|---------|-------|-------|-----|---------|-------------|------------|---------|---------|---------|
| 分 類 | 企業 | その他 | 小計 | 職員 | 退職職員 | 在学生 | 卒業生 | 在学生の 保護者 | 卒業生の 家族 | 一般 | 小計 | 合 計 |
| 寄附件数 (件) | 90 | 11 | 101 | 98 | 81 | 31 | 1,040 | 262 | 153 | 280 | 1,945 | 2,046 |
| 寄附金額 (千円) | 273,069 | 5,550 | 278,619 | 3,510 | 6,961 | 589 | 151,040 | 7,882 | 95,660 | 422,335 | 687,977 | 966,596 |

②基金本体と特定基金

基金本体と特定基金の寄附状況については、以下の通りです。

| 分 類 | 寄附件数 (件) | 寄附金額 (千円) |
|------|-------------|--------------|
| 基金本体 | 797 | 403,309 |
| 特定基金 | 1,249 | 563,287 |
| 合 計 | 2,046 | 966,596 |

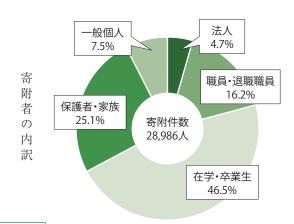
■2005年度~2024年度の寄附累計受入状況

◇寄附総額【現金寄附】: 10,495,057,680円

◆寄附総額【物納、有価証券等を含む】:

23,203,893,278円

◆寄附者数【物納、有価証券等を含む】:28,986人



■2024年度 名古屋大学基金事業収支状況

《収入》

(単位:千円)

| 区 分 | 金 額 |
|-----------|---------|
| 前年度繰越額 | 395,130 |
| 当期運用益 | 313,345 |
| (資金運用益) | 187,303 |
| (有価証券配当金) | 126,010 |
| (普通預金利息) | 32 |
| 合 計 | 708,475 |

《支出》

(単位:名、壬四)

| | | (単位・石、十円) |
|------------------|-----|-----------|
| 区分 | 支援数 | 金 額 |
| 学生支援 (奨学金、留学支援等) | 346 | 199,594 |
| 研究支援 (若手研究者支援等) | 9 | 35,678 |
| その他 | 1 | 5,878 |
| 名古屋大学基金への戻入 | _ | 467,325 |
| 合 計 | 356 | 708,475 |

■2024年度 特定基金事業総括

特定基金事業の寄附受入件数、寄附受入額、執行額については以下の通りです。

| 事業名 | 寄附件数 (件) | | 執行額(千円) | 執行実績及び今後の執行計画 |
|-------------------------|-------------|----------------------|---------------------|--|
| 工学部・工学研究科支援事業 | 139 | 10,948 (107,611) | 5,970 (40,990) | 【実績】博士後期課程入学者のうちの希望者全員 (留学生を含む該当者71名) に70千円を支給 若手研究者支援:1,000千円(2名分) |
| 青色 LED・未来材料研究 支援事業 | 77 | 75,036 (213,122) | 12,698 (101,773) | 【実績】研究設備、消耗品:0円、人件費:6,077 千円、知的財産管理費:1,373千円、学生海外派 遺助成:2,061千円、オンライン英会話補助:851 千円、学生奨学支援:2,335千円 |
| アジア法律家育成支援事業 | 12 | 725 (22,781) | 1,167 (7,865) | 【実績】「名古屋大学ユス・コムーネ賞」の受賞者の選考、及び受賞式・論文発表会を開催 留学生支援のための論文執筆補助(論文校閲)事業を実施 |
| 女性リーダー育成支援事業 | 23 | 222 (6,209) | 0 (0) | 【実績】女性研究者の育成支援(研究費支援、シェア秘書・研究支援員雇用支援、英文校閲費用助成事業)、女子学生・院生の育成・支援(理系女子学生コミュニティ「あかりんご隊」活動支援)、多様性戦略アドバイザーの設置 |
| 経済知識人育成支援事業 | 36 | 605 (74,862) | 2,008 (34,185) | 【実績】経済学部本館内3部屋の空調機等工事及び環境整備費用:1,734千円 学修支援(学生旅費):274千円 |
| 医学系未来人材育成支援事業 | 70 | 307,176 (514,886) | 8,505 (34,329) | 【実績】教育環境整備事業:メディカル xR センターの整備 学修支援事業:成績等が優秀であり、経済的理由 により就学が困難な学生への奨学金:3,000千円 (4名分) |
| 名古屋大学 「大学発ベンチャー応援事業」 | 25 | 26,940 (154,609) | 10,232 (48,423) | 【実績】モノづくりベンチャー活動支援金:6,331 千円、ビジネスプランコンテスト:2,800千円、 アイデアピッチコンテスト:1,100千円) 【計画】アイデアピッチコンテスト、ビジネスプ ランコンテストの実施。学生の教育、大学発ベン チャー支援に関するプログラム、モノづくりベン チャー活動支援金事業の実施を予定 |
| 医学部附属病院支援事業 | 67 | 43,294 (351,553) | 0 (11,640) | 【計画】患者サービスの向上及び診療環境の充実 のため、本基金を活用予定 |
| 名古屋大学附属図書館 支援事業 | 97 | 4,183 (56,610) | 11,745 (26,423) | 【実績】高木家文書の修理(16点):1,494千円、高 木家文書図書館企画の実施:1,255千円、デジタ ルアーカイブ運営事業:1,686千円、医学部分館 環境整備:7,016千円、学生用図書整備:294千円 |
| ジェンダー平等支援事業 | 11 | 30,060 (81,117) | 2,210 (22,066) | 【実績】女性教員増員策のために以下を執行 2019年増員策:62千円、2021年増員策:中間評価 で目標数値を上回った7部局にインセンティブと して配分。女性休憩室の設置や女性教員への研究 費支援として2,148千円執行 |
| 農学部・生命農学研究科 教育研究支援事業 | 82 | 10,345 (154,665) | 6,073 (39,947) | 【実績】学生等への奨学金及び、外国の大学等との教育研究交流、留学生への支援 【計画】博士後期課程在籍学生への奨学金の給付: 1,800千円(1名分 ※1学年につき1名に限る)、 天野エンザイム酵素一般研究助成:1,200千円(1 名分)、奨励研究助成:1,200千円(2名分) |

| 事業名 | 寄附件数 (件) | 受入額 (千円) ※下段は累計額 | 執行額(千円) ※下段は累計額 | 執行実績及び今後の執行計画 |
|--|-------------|---------------------|---------------------|--|
| 次世代保健医療リーダー育成 支援事業 | 4 | 70 (2,903) | 0 (0) | 【計画】学生教育環境整備事業及び若手研究者支援事業に執行予定 |
| トランスフォーマティブ 生命分子研究所支援事業 | 10 | 152 (2,182) | 0 (0) | 【計画】若手研究者の研究支援に執行予定 |
| 教育学部附属中·高等学校75周 年記念国際化推進支援事業 | 35 | 1,264 (11,502) | 330 (406) | 【実績】国際交流事業:330千円 【計画】附属学校高校生の海外派遣や、留学生の 日本国内事業費等に執行予定 |
| 創薬科学研究科支援事業 | 21 | 447 (7,563) | 0 (173) | 【計画】教育研究環境の整備に500千円 |
| 理学部学生支援事業 | 35 | 1,019 (10,735) | 445 (2,981) | 【実績】理学部長顕彰:300千円(6名分)、理学 部奨励賞:145千円(29名分) 【計画】理学部長顕彰:300千円(6名分)、理学 部奨励賞:150千円(30名分) |
| PhD 登龍門支援事業 | 4 | 68 (82,718) | 5,823 (50,850) | 【実績】学生の教育支援:2,329千円、学生の研究 支援:3,494千円 |
| 教育学部・教育発達科学 支援事業 | 13 | 1,200 (20,316) | 960 (4,350) | 【実績】教育学部 KANG 奨学金: 960千円 (2名分) |
| 博物館支援事業 | 10 | 614 (2,468) | 0 (0) | 【計画】名大創基150周年記念時に設置した「名古屋大学の歴史」展示コーナー及びコミュニティスペースの拡充、地域貢献及び展示等事業への活用 |
| 巨大災害から次世代を守る 減災館支援事業 | 35 | 921 (9,968) | 1,752 (2,956) | 【実績】企画展や共催企画展を実施し、最新情報の提供に務め、2025年3月には開館以来の来場者が10万人を突破。減災館の備品、展示用PC更新、展示品の修理等に活用 |
| 数理科学学生支援事業 | 39 | 418 (5,407) | 0 (0) | 【計画】同窓会等の活動を通じて寄附の働きかけを行うとともに、学外の方に本事業の趣旨に賛同いただけるよう広報活動にさらに注力する |
| 人文学教育研究支援事業 創立75周年記念文学部研究基盤 整備支援事業(募集期間終了) | 20 | 685 (14,138) | 0 (9,248) | (2025年10月に支援事業名変更) 【計画】図書室及び図書の収蔵スペースの整備・ 拡充、学術イベントの開催、学修支援事業等を計 画 |
| 創基150周年医学部基盤整備 支援事業 (募集期間終了) | _ | 0 (213,523) | 13,701 (165,398) | 【実績】緑地整備等のキャンパス整備:13,701千 円 |
| 総合科学による古代エジプト 調査研究支援事業 | 22 | 1,545 (6,827) | 1,965 (3,015) | 【実績】2023年度から、エジプトの地方のピラミッドの一つである「シンキのピラミッド」の研究を開始し、その発掘調査費、ドローン撮影費、遺跡保全管理費、研究資料の購入など本事業費から支出 |
| 名古屋大学漕艇部艇庫·合宿所 等整備支援事業 | 24 | 1,350 (34,989) | 6,011 (12,281) | 【実績】艇庫改修部分負担費:3,957千円、艇の購入:2,054千円 【計画】令和艇庫建設:調整中、艇の購入(令和8年度):3,000千円 |
| 博士課程人材育成支援事業 | 12 | 1,323 (4,825) | 0 (0) | 【計画】博士課程教育推進機構及び関係教育プログラムで連携を図り、幅広い支援を受けるための方策や、基金の活用方法を協議する |

| 事業名 | 寄附件数 (件) | 受入額(千円) ※下段は累計額 | 執行額(千円) ※下段は累計額 | 執行実績及び今後の執行計画 |
|-----------------------------|-------------|---------------------|--------------------|---|
| 次世代環境人材育成支援事業 | 7 | 14,921 (29,636) | 4,071 (12,037) | 【実績】次世代環境人材育成奨学金:1,800千円、フィールド教育支援(社会環境学に関する地域調査実習:500千円、マフィック/超マフィック岩の炭素固定と天然水素資源に関するフィールド教育:497千円、環境学研究科学生研究活動支援事業支援金:1,176千円、環境学研究科新講義科目『環境問題解決の最前線』開講(人件費):98千円 |
| 食と健康に関する学際的研究 支援事業 | 2 | 13 (45,175) | 5,829 (28,592) | 【実績】医学系研究食と健康の未来創造センターが実施した「食と健康の未来創造研究公募事業」のR5年採択課題執行額:2,590千円、既存採択案件継続研究支援金:3,239千円を執行 |
| スタートアップエコシステム 推進事業 | 2 | 230 (4,037) | 3,046 (3,046) | 【計画】大学関係者の起業支援及び起業後支援の 充実を図るための各種事業に本基金を活用予定 |
| 名古屋大学ヨット部運営 支援事業 | 26 | 2,500 (2,500) | 0 (0) | 【計画】レスキュー艇(約4,000千円)購入を目標 |
| 名古屋大学陸上競技部運営 支援事業 | 17 | 408 (408) | 201 (201) | 【実績】陸上競技部員の出雲駅伝の応援旅費の一部の補助 【計画】グラウンドの備品更新、コーチ活動の補助 |
| 名古屋大学アメリカンフット ボール部運営支援事業 | 21 | 960 (960) | 90 (90) | 【実績】安全対策事業として、新たな練習用タックルダミーを購入 【計画】高品質な防具や練習器具を導入し安全対策事業を継続、若手選手への合同練習・試合参加支援 |
| 若手研究者支援を推進する研究 等支援事業 | 20 | 2,871 (9,735) | 0 (0) | 【計画】若手研究者支援を推進するため、公募により選定されて参加する研究プロジェクトにおいて、自立した研究者として行う研究活動及び研究活動の成果発表等への支援に活用する予定であり、引き続き、具体支援策について整備のうえ支援金の支出を予定している |
| 企業によるエンカレッジメント 奨学金事業 | 5 | 6,000 (22,500) | 6,000 (16,500) | 【実績】寄附金受入:6,000千円(2025年度奨学金)、執行:6,000千円(2023年度寄附金)(500千円×12名分) |
| 経済的困窮学生の修学支援事業 | 132 | 13,767 (106,586) | 8,520 (45,631) | 【実績】NU 奨学金:1,200千円、理学部奨学金: 1,500千円、法学研究科ベトナム留学生奨学金: 1,120千円、法学研究科アジア留学生奨学金: 4,700千円 |
| ギビングキャンペーン | 94 | 1,007 (1,007) | 1,005 (1,005) | 【実績】人力飛行機製作サークル AirCraft、名古屋大学体育会ヨット部、体育会航空部、ラクロス部、馬術部に支援 |
| <u></u> | 1,249 | 563,287 | 120,357 | |

支援を受けた学生の声 ~2024年度名古屋大学基金感謝の集いより~

1. 海外派遣日本人学生奨学金受給学生

私は1年次の冬にオーストラリアの短期海外研修に参加しました。以前から英語が好きで、大学生になったら留学をしたいという強い気持ちがありました。一方で、初めての海外であることや、円安の影響で物価が高くなっていることから、金銭面の不安も大きいものでした。しかし、留学の説明会で名大基金の存在を知り、留学への一歩を踏み出すことができました。本日この場で、直接感謝の気持ちを伝えられることを大変嬉しく思います。



私が参加したプログラムは、西オーストラリアでの5週間の語学研修でした。現地の語学学校で、英語4技能を満遍なく学びました。英語学習は日本でもできますが、現地での学びには特別な価値がありました。特に印象的だったのは、自分の考えや経験を話す機会が非常に多くあったことです。これは、今まで日本で受けてきた授業とは大きく異なるものでした。決まった答えがないため、自分で自由に考えることができ、自分自身を振り返るいいきっかけにもなりました。私のクラスの大半は日本人と中国人でした。お互い母国語でない言語で会話することの面白さを感じながら、間違いを恐れずに英語を話す自信がついていきました。この経験を通じて、英語を学ぶ楽しさを再確認することができました。

授業後や休みの日を使って、オーストラリアの様々な場所へ行きました。街中を散策することを始め、電車で少し遠出をしたり、バスツアーに参加したりもしました。一番印象に残っているのは、ウェーブロックと呼ばれる岩でできた崖をツアーで見に行ったことです。果てしなく続く荒れた大地の中をバスで走っていきました。途中、予期せぬ大雨などのハプニングもありましたが、無事に到着した時に見たウェーブロックの壮大さ、その上から見た大地の広大さ、美しさは今でも鮮明に覚えています。オーストラリアでしか見られない大自然や建築物をこの目で見て感じて、自分の知っていた世界の狭さを知りました。

また、現地では本当に温かいホストファミリーに恵まれました。何度も留学生を受け入れてこられたベテランのご夫婦は、私の拙い英語も一生懸命理解しようとしてくださいました。最初は言葉がうまく通じず戸惑うこともありましたが、二人の優しい笑顔と温かな気遣いは、慣れない環境の中での大きな心の支えとなりました。毎日の食事を共にし、休日には地元の素敵な場所へ連れて行ってくださる中で、私は大切なことに気が付きました。それは言葉が完璧でなくても、国や文化が違っても、人の優しさや愛情は確かに伝わるということです。この学びは、言語の習得を超えて、私の心に深く刻まれました。約5週間の滞在を終え、別れの時には自然と涙があふれ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これらの経験は、間違いなく、これまでの私に多くの気づきと成長をもたらしてくれました。現在は英語ディベートや留学生のチューター活動に携わり、その経験を活かしています。さらに、今年の夏からはアメリカへの交換留学も予定しています。オーストラリアでの留学の経験が、より大きな挑戦への自信を与えてくれました。このような貴重な機会を与えてくださった名大基金に、心より感謝申し上げます。ここで得た経験を、今後の学びや将来の進路に活かしていくことで、支援への恩返しとさせていただきたいと思います。 (情報学部2年 片岡 莉菜さん)

私は約2年半前から9か月間、名古屋大学の全学間協定校であるアメリカ・ミネソタ州のセントオラフ大学で交換留学を行いました。

私が大学に入学した2020年春、地元千葉から名古屋へ単身引っ越しましたが、新型コロナウイルスの影響で、大学2年生までほとんど大学へ通うことができませんでした。自宅で一人きりで過ごす日々の中、私は心の中で寂しさを感じ、自分に自信を持つことができませんでした。そのため、環境を大きく変えるために海外留学を決意しました。



留学に向けて準備を進める中、金銭面での不安が大きな課題となりました。渡航する2022年の夏、円安が進み、アメリカの物価高と相まって、家族への経済的負担を心配しました。その結果、一度は留学を断念しようかとも考えました。しかし、皆様のご支援のおかげで、家族も後押ししてくれ、無事に渡航することができました。この機会をいただけたことに、改めて感謝の気持ちをお伝え申し上げます。

留学中は、現地での授業に真摯に取り組みました。留学当初、現地学生の学びに対する情熱に刺激を受け、言語の壁を乗り越えて学びを深めようと努めました。授業に向けて事前学習を行い、授業後は録音した授業音声を繰り返し聞き返すことで、次第にクラスメイトや教授と対等にディスカッションができるようになりました。そこで、教科書の理論や研究結果を単に暗記するのではなく、さまざまな研究を基に総合的に物事を考え、意見を交わしながら理解を深めていく重要性を実感しました。

また、異文化の中でマイノリティとして過ごした経験は、私の価値観に大きな変化をもたらしました。留学先は小さな田舎の学校で、日本人は3人のみ、交換留学生も3人のみで常に少数派でした。英語に不安もあり、履修登録で問題が起こり、強制帰国の危機にも直面しました。しかし、現地の多くの方々に支えられ、困難を乗り越えることができました。この経験を通して、帰国後は名古屋大学に来る交換留学生をサポートしたいと強く思い、留学生支援サークルで情報発信を行ったり、日本語で交流できる場を提供したりしました。留学を経て、私の日常は大きく変わり、多くの人々のために行動できるようになりました。この経験は、私にとって非常に大きな成長となりました。

最後に、私たちに貴重な学びの機会を与えてくださった皆様に、改めて心から感謝申し上げます。私一人でなく、皆様のご支援により留学を通して成長した仲間がたくさんおります。皆様の温かいご支援に、改めて感謝申し上げます。 (教育学部4年 小池 日向子さん)

2. G30学部留学生奨学金受給学生

私はブラジルから参りました。父は日系三世のブラジル人で、母はイタリア人です。25歳の兄がいます。ブラジルは非常にきれいな国ですが、さまざまな問題があります。犯罪が多く、強盗や誘拐もあり、子供だけで街を歩くのは危険でした。子供の教育環境を考え、両親は家族で日本へ来ることを決めました。父は会社員で、母は理学療法士でしたが、仕事を辞め、私が11歳の時に日本に引っ越しました。私は日本で、ブラジルでは得ることができなかった安心感や教育の機会をいただきました。しかし、日本へ来た後で母が下垂体



機能低下症と脊髄炎と言う病気になって、経済的に厳しくなりました。時々発作を起こし、治すことができない難病ですが、日本で高度な治療を無料で受けることができ、介助犬も5年間つけていただきました。日本の方々の母へのケアに心から感謝しています。母の病気のことで、私は日本の文化や人々への尊敬と感謝の気持ちを深めました。高校卒業後、母の近くにいて家族を支えたかったため、日本に残りたいと思いました。しかし、家族の経済的な事情が厳しく、私は日本語があまり得意ではないので、大学へ行くのは無理だと思っていました。そのため、英語で授業が受けられる名古屋大学G30国際プログラムを見つけて嬉しく思いましたが、経済的に難しいことも理解していました。しかし、父は、お金のことは父が頑張るから、ヤスミンは大学へ行きたいなら行きなさいと言ってくれました。そこで、名古屋大学へ見学に来ました。その時、大学の方から名古屋大学基金の奨学金があることを聞き、申し込みました。そして、奨学金を受けることができたおかげで、今ここにいます。皆様から頂いている奨学金は私たち家族の大きな支えになっています。皆様、誠にありがとうございます。

私の夢はジャーナリストになることです。入学した頃、私は世界をより良い場所にしたいと思っていましたが、自分の役割はまだ分かりませんでした。名古屋大学で素晴らしい先生方から学ぶ機会をいただき、日本や日本と他国との関係を理解する重要性を知りました。大学で学んだことを使って、世界のさまざまなところで起きていることを伝え、情報を分かち合い、その人々を助けたいと思います。例えば、去年1月に能登半島で地震がありましたが、被災者の苦しみを、多くの人々は知らないと言うことに私は気がつきました。去年、父は能登半島に、被災した家の解体工事のため働きに行きました。政府やコミュニティーの疲れを知らない頑張りにもかかわらず、能登の人々は今でも苦しんでいることを、父は私に教えてくれました。世界中で自然災害が増え、そのような経験をしている人々が多くいます。ブラジルでも、森林火災のために人々が苦しんでいます。そのような情報を確実に伝え、世界が彼らに必要な助けを届けられるようにするために、私はジャーナリストになりたいと考えています。私は今、名古屋大学でジェンダー問題や植民地主義の歴史について学んでいます。文化や歴史を知ることで、今世界で起きている紛争などをより深く理解することができます。人はお互いの痛みや苦しみを理解することで、共感し尊重し合うことができるようになると思います。私は名古屋大学で学んだ知識を基にして世界をより良い場所にするために働きたいと思っています。

名古屋大学基金の奨学金がなければこれらのことは何もできなかったと思います。これは私一人だけではなく、皆様のおかげで、世界中から来た多くの学生が自分の夢を追いかける機会をいただいています。全ての学生を代表して皆様のご支援に心から感謝申し上げます。 (文学部 2 年 ビラニ ゴンザガ ヤスミンさん)

名古屋大学基金へのご寄附

名古屋大学基金は、いただいた寄附金を基金として積み立て、その運用益で各種の事業を展開しています。 さまざまな振込み方法をご用意し、金銭以外のご寄附も承っているほか、支援目的を特定できる特定基金 へのご寄附も募っております。

寄附金のお申込み方法

名古屋大学基金では以下の方法で、インターネットからのご寄附を受け付けています。

- クレジットカード決済
- インターネットバンキング決済(ペイジー)
- コンビニ決済(番号方式)
- コンビニ決済(払込票方式)
- ATM決済(ペイジー)
- 銀行振込 ※ゆうちょ銀行含む

QRコードまたは https://kikin.nagoya-u.ac.jp/



銀行振込をご希望の個人の方は振込用紙を送付させていただきます。 名古屋大学Development Office (DO室) までご連絡ください。

名古屋大学 Development Office (DO室)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL.052-789-4993 FAX.052-747-6383 E-mail: do@kikin.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学基金ホームページ https://kikin.nagoya-u.ac.jp/